

## ■ データで振り返るパインボウル勝利

北海学園大が24-14で東北大を下し、3度目の出場で初優勝を飾った23日の北日本大学アメリカンフットボール王座決定戦・第33回パインボウル（元気フィールド仙台）。東北の雄を攻守に圧倒し、北海道代表として13年ぶりの勝利となった一戦は、道内のアメフト関係者も感激させ、北海学園大が関東代表と対戦するホワイトボウル（12月20日）への期待も膨らませる。杜の都の熱戦をあらためてデータで振り返り、ゴールデンベアーズの勝因を確かめてみよう。

まず、攻撃力を示す総獲得距離は北海学園大が301ヤードで、東北大の202ヤードを100ヤード近く上回った。このうちランは北海学園大が44回、204ヤードを稼いだのに対し、東北大は13回で51ヤードにとどまった。北海学園大は、エースRB阿部龍太郎（4年、室蘭栄高）が31回、153ヤードと駆け回り、QB小笠原丈瑠（2年、札幌・北海高）も7回、30ヤードを走った。阿部のダイブやオープンに加え、要所で交えたQBキープが東北大守備を混乱させた。



【31回、153ヤード、1TDと北海学園大攻撃を引っ張ったRB阿部龍太郎】

象徴的だったのが第2Qの3-7からの逆転劇。LB松本竜輔（2年、旭川龍谷高）のインターセプトで東北大陣25ヤードで攻撃権を得ると、RB阿部の右オープン、QB小笠原の技ありの右オープン、RB阿部のダイブと右オープンで敵陣7ヤードへ。相手守備が前掛かりになったのを突いて、QB小笠原がWR屋敷龍作（3年、石狩南高）へ鮮やかなTDパスを決め、逆転に成功した。



#### 【北海学園大の攻撃を支えた攻撃ライン】

怒濤のラン攻撃を支えたのが主将のT本間航史（4年、札幌東高）ら攻撃ラインの強力ブロックだった。C白井智夢（4年、札幌光星高）、G高橋遼大（4年、札幌英藍高）、G近藤巧実（3年、札幌第一高）、T宿野部壮紀（4年、札幌・北海高）を合わせた5人の平均身長と平均体重は178センチ、101キロ。サイズとスピードに加え、経験豊富な4年生たちの技術が東北大守備ラインをコントロールし、LBの動きも鈍らせた。

一方、お家芸のパス攻撃は、東北大の22回成功、151ヤードに対して10回成功、97ヤードにとどまったが、3本のTDのうち2本がパスで。エースWR佐藤玲太（3年、札幌光星高）は3回、34ヤードに終わったものの、相手DBを十分に引き付け、WR屋敷とWR野本了輔（1年、札幌大谷高）のTDキャッチを呼び込んだ。

守備陣も持ち味を存分に見せた。第3ダウンコンバージョンの成功率は北海学園大の67%に対して、東北大は54%。東北大攻撃をパントに追い込む場面も目立った。最前線のDL坂本大弥（4年、札幌開成高）、井利元宙夢（4年、江別・大麻高）、大谷洸二郎（4年、苫小牧経済高）、岩崎慶太（3年、苫小牧東高）が、平均身長181センチ、平均体重102キロの東北大攻撃ラインを押し込み、LB竹内佑至（4年、旭川明成高）、松本竜輔、阿部優斗（3年、市立函館高）がハードタックルを見せた。竹内はチーム最多の8タックルを決め、パントフェイクからのスペシャルプレーで好走も披露した。

東北大に151ヤードのパスを許したが、44回のパス攻撃に対してインターセプトは松本の2回とDB永井峻（4年、札幌光星高）が1回。LBとDBで8回のパスカットを見せ、要所で東北大の反撃の芽を摘んだ。

守備陣の踏ん張りが際立った場面の一つが第2Q、4分過ぎ。北海学園大が10-7と逆転した直後の東北大攻撃で、第1ダウン更新を一回許したが、続く第1ダウンでDL坂本、大谷、藤田の猛ラッシュに相手QBがパス失敗。第2ダウンでは、制球の乱れたパスをDB永井が鮮やかにインターセプトした。続く北海学園大の攻撃でRB阿部龍太郎がTDランを決め、16-7とリードを広げた。